

タイル張り仕上げをしたコンクリート壁体への水分浸透 (その1 吸水実験の概要と結果)

Water Penetration to the Concrete Wall of the Tiling Finish
(Part1. Summary and the Results of the Water Absorption Experiment)

恩村定幸*

背景・目的

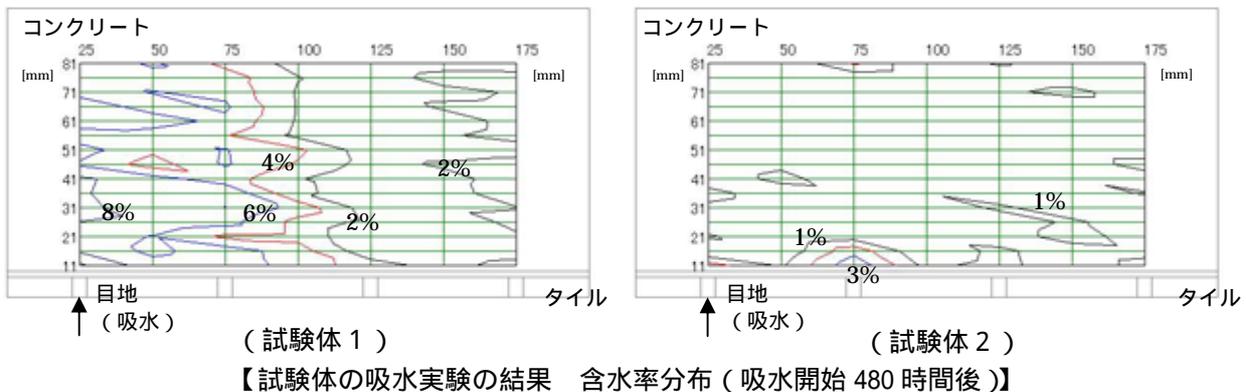
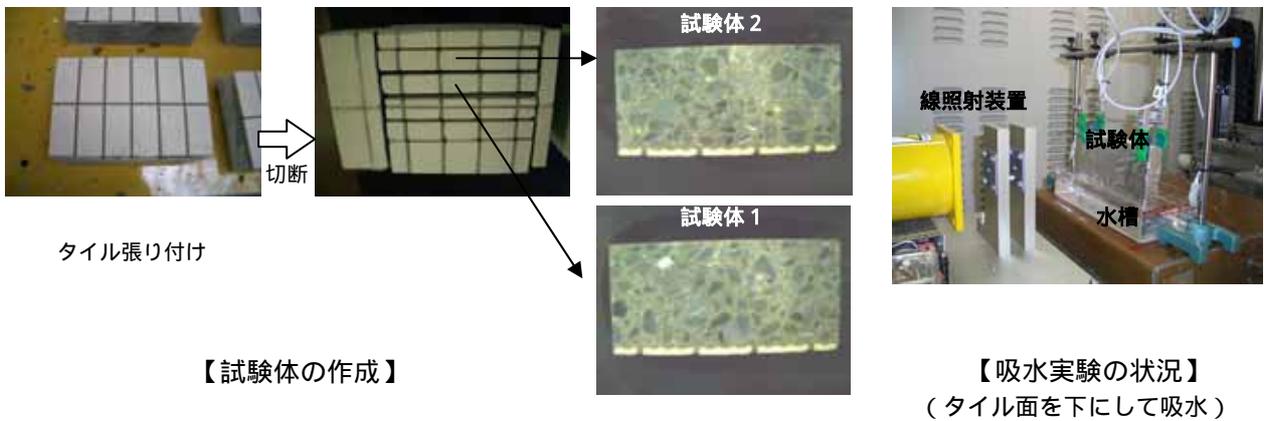
防露設計ではコンクリートの水分移動のばらつきを考慮して検討すべきである。壁体に仕上げがある場合、そのばらつきは一層複雑になると考えられる。そこで、一般的なタイル張り仕上げが施されたコンクリート壁体について吸水実験を行って、水分移動の様相を把握した。

概要

薄塗り直張り工法でタイルを張り付けたコンクリート試験体を用いて、等温下でタイル面から吸水させ、試験体内部の含水率の変動を測定した。測定には 線含水率測定装置を用いた。

結論

測定の結果、部位によって水分移動の様相が著しく異なることが分かった。その原因として、内部空隙の構造や骨材の分布状況の違いによって生じる水分移動に関する物性値（水分の流れやすさを表す係数）のばらつきが考えられる。今後は、そのばらつきがこれまで行われている計算結果に及ぼす影響について、詳細な検討を数値解析によって行う。



共同研究：京都大学